

認定看護師紹介 / 集中ケア認定看護師
齋藤 茜 (さいとう あかね)

People

集中ケア認定看護師の「集中ケア」とは主に集中治療領域において、重症かつ集中治療を必要とする患者さんと、その家族への看護、生命の危機状態にある人間の反応に対処する看護を指します。東北大学病院では、現在5名の集中ケア認定看護師が勤務しており、私はその中でも高度救命救急センターで患者さんの看護に携わっています。今回は救命センターのICUでの活動について紹介したいと思います。

2016年10月からドクターヘリ事業が開始され、救命センターには日々重症な患者さんが搬送されてきます。その理由は様々で、大きな怪我であったり、突然の病気の発症、またはこれまで長く付き合っ

きた病気の急激な悪化であったり、なんらかの原因で「突然」具合が悪くなった患者さんが多く入院されます。

病院前からERを経て多くのスタッフが関わり、患者さんの救命を最優先に医療やケアが施されます。その後、ICUに入院された患者さんが、苦痛を最小限に療養し、少しでも早く回復へと向かうことができるよう日々ケアをしています。様々な背景を抱えた患者さんに適切なタイミングで必要とされるケアをするためには、幅広い知識だけでなく、その知識に裏付けられたフィジカルアセスメント能力と質の高い看護実践能力が求められます。「突然」の病気や怪我で集中治療が必要となった患者さ

んやご家族を前に、思い悩むことも多いですが、日常生活の援助を通して、身体的・精神的・社会的な苦痛や障害を最小限に回復できるよう多くのスタッフとともにケアにあたっています。また集中ケア認定看護師として臨床現場で役割モデルを果たせるよう、自分の持っているものを周囲のスタッフに伝えていくことも重要だと考えています。



お知らせ

Information

● 卒後研修センター Web サイトをリニューアルしました

3月17日、東北大学病院卒後研修センターのホームページをリニューアルしました。当院の研修の特徴や募集要項などの情報に加え、研修医／修了者／指導医へのインタビューを集めた「卒研ボイス」や「卒研ライフ」「レポート／コラム」「Q&A」「サポート体制と環境」など、新しいコンテンツを追加しています。ぜひご利用ください。

お問い合わせ

東北大学病院 卒後研修センター
(東北大学病院総務課臨床研修係)
〒980-8574
仙台市青葉区星陵町 1-1
TEL: 022-717-7765
Eメール: hos-sotu@grp.tohoku.ac.jp
http://www.sotuken.hosp.tohoku.ac.jp/



● 第18回東北大学病院市民公開講座
もっと知りたい! 血圧と腎臓の神秘 参加費無料

日時: 2018年6月23日(土) 13時～
場所: 仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山)
講演: 当院医師らによる基調講演・ゲストによる
記念講演・パネルディスカッション
同時開催: 血圧を測って健康チェック!
(同会場 桜ホール)



事前のお申し込みが必要です。
詳しくはお電話でお問い合わせください。
(TEL: 022-717-7131)

● 新患に関する変更のご案内
心療内科は平成30年5月より新患日が変更になりました。

新患日: 月・水・木 (祝祭日・年末年始を除く)
連絡先: 022-717-7734 (心療内科外来)

編集後記

今年も気が付けば5月。出会いと別れの季節も過ぎ去ってしまいました。一般的に出会いは楽しく、別れは悲しいものなのですが、最近まで悩まされることが多かった「花粉症」についていえば、できれば出会いたくなかったし、直ぐにでも別れたいものだと思いをこすりながら考える日々が続いておりました。これからは、気温の変化が激しい梅雨の時季を迎えますが、衣服の調節や食事等で、体調管理に努めていきたいものです。(地域医療支援係長 須田 征宏)

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL: 022-717-8885 FAX: 022-717-8886
Eメール: rmsupport-group@umin.net
ご意見・ご要望は地域医療支援係までお問合せください。

with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.45

2018年5月11日発行



イベント情報 / てんかん科 上利 大

仙台パープルデー 2018 を開催しました

Event

3月26日はてんかん啓発の日であるパープルデーです。多くの人にてんかんの正しい知識をもってもらい、より理解を深めてもらうためのイベントが世界各地で行われます。仙台でも東北大学病院てんかんセンター主催で仙台パープルデー2018が開催されました。

第1弾として3月24日に「知って安心、てんかんと就労」がぶらんどーむ一番町特設会場とau SENDAI 2F イベントスペースで開催されました。会場となったアーケードは通行人が非常に多く、多くの市民にパープルデーを理解してもらうことができました。特設会場では、華麗なフラッシュモブに続き、東北大学病院てんかんセンター長 中里信和先生の発作ビデオを用いたトーク、スペシャルゲストの「奥州・仙台おもてなし集団『伊達武将隊』」Wの力強い演武、クイズ大会が盛況に行われました。隣のau SENDAI 2F イベントスペースでは、中里センター長の市民講演や、就労支

援員齋藤涼平氏による就労支援事業のお話がありました。パネルディスカッションでは、「てんかんのある方がどうすれば生き生きと働くことができるか、雇用主はどうすれば安心して雇用できるのか」をテーマに熱い討論が繰り広げられました。一人一人のてんかんの発作症状も悩みも異なるため、まずは本人や家族が自分の症状をよく理解し、職場の同僚や上司に伝えることが大切です。地域の就労支援事業所のサポートは、安定した雇用につながります。本人や家族に加えて、医療者、ソーシャルワーカー、就労支援者、雇用者の広い連携が必要という結論に達しました。

第2弾は、パープルデー当日の3月26日に楽天生命パーク宮城のイーグルスドームで開催されました。東北ゴールデンエンジェルスによる華やかなパフォーマンスと中里センター長によるてんかん啓発講演の後に、楽天ゴールデンイーグルスの岡島豪郎選手会長から力強く勇気が湧いてくる

応援メッセージをいただきました。

仙台パープルデー2018はたくさんの方々や企業にご賛同いただき、ご協力・ご支援をいただくことで成功裡に終了することができました。てんかんをもつ方が安心して生活を送れる社会になれるように、これからもパープルデーを続けていきたいと思っています。





「半導体検出器搭載・最新鋭PET/CTを2台運用開始」

Department

～悪性腫瘍術前画像診断の新たな時代の幕開け～

放射線診断科は東北大学病院のあらゆる分野の画像を扱っておりますが、3月に運用の始まったGE社の半導体検出器を搭載した最新鋭PET/CT「Discovery MI」の紹介と、今後の展望を紹介させていただきます。

東北大学病院では2017年の診療科再編に伴い、放射線診断科がPET/CTを含めた核医学画像診断のすべてを担うことになりました。放射線診断専門医が総勢20名という東北地方最大の豊富な人員により、今までと変わらない質の読影を行っております。

今回導入されたPET/CTは検出器に半導体を用いることで、放射線を効率良くデジタル信号に変えることができ、著しい感度の向上が可能になっています。また、Time-of-flightを搭載し、空間分解能も向上しています。百聞は一見にしかず、写真に従来のPETと新しいPETを同一被験者（ボランティア）で撮像したのを見て下さい。体幹の画像ではコントラストが向上し輪郭がシャープになっています。また、呼吸同期をかけることで肝臓の辺縁がぼやけず明瞭になっていることがわかります。肺底部～上腹部の病変の評価能向上に繋がります。脳の画像は皮質髄質境界が明瞭化し、脳溝がはっきりと描出されています。てんかん焦点の検索に優位性を発揮してくれると期待しています。

今までも地域医療連携の一環で核医学検査の撮影と読影の依頼を受けてきましたが、PETに関しては当院の予約枠がいっぱい、近隣の施設にFDG-PET/CTの撮影・読影を依頼していた施設も多いかと思われます。今回新規に2台購入したことで当院では計3台のPET/CTが稼働する事になるため、今後は地域医療連携用の紹介患者枠を確保し、スムーズな予約が可能になります。

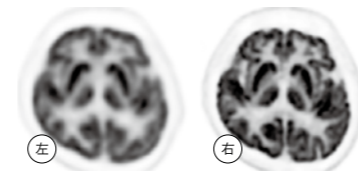
もちろん、地域医療連携枠は今回紹介した最新PET/CTで優先して撮像します。撮像した画像は2営業日以内に核医学専従の経験豊富な診断専門医が読影し、画像CD-ROMとともに返

送させていただきます。画像とレポートにはきつとご満足いただけることと思います。

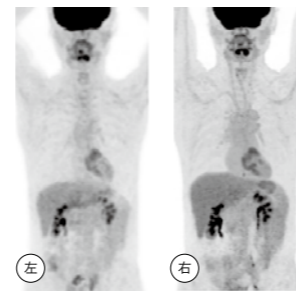
FDG-PET/CTはあくまで糖代謝と単純CTの情報です。それだけを読影するのは難しいことではないですが、我々としてはPET/CTを撮像するに至ることになった病歴とそれまでの画像検査をもとに最大のパフォーマンスを提供したいと思っております。御紹介の際は一步踏み込んだ読影のために病歴や病理などの情報と、過去検査画像の提供をよろしくお願い致します。

宮城県内では電子カルテや紹介状、PET/CTを含めた医用画像などの情報を登録病院間においてオンライン上でやりとりをするMMWIN（みんなのみやぎネット）の導入を進めています。これらのネットワーク連携により、当院の最新PET/CTを、まるで貴院のPET/CTかのようにお使いいただける事が、患者さんそして宮城県全体の利益につながり、私どもの最大の喜びであります。核医学にかかわるスタッフ一同、皆様と

の今まで以上の連携を心よりお待ちしております。



写真左 従来型 PET
写真右 最新半導体 PET
全身スキャンと同一被験者。SUVの表示条件は0～15のスケールに統一している。



写真左 従来型 PET
写真右 最新半導体 PET で同一被験者（50代男性）を同日に撮像した。SUVの表示条件は0～5のスケールに統一している。



病院長と最新 PET を囲んだ一枚。GE社の半導体検出器搭載型最新 PET/CT Discovery MI. 128列のCTを搭載している。寝台手前のセンサーを用いて呼吸同期が可能。

～ご紹介いただく際は～

東北大学病院 地域医療連携センターにお申し込みください。FAX用紙は東北大学病院のホームページからダウンロードできます。

FDG-PET/CTに関するお問い合わせ先
：放射線核医学受付 TEL. 022-717-7680

<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/organization/002.html>



総括副院長からのご挨拶

Dental Department

この春に2期目の総括副院長を続投いたします高橋 哲です。総括副院長という立場は、歯科部門診療科のトップで有るばかりでなく、八重樫病院長を支え、医科部門と歯科部門の副院長とともに、東北大学病院を支える大変重要な立場でありますので、改めて責任の重さを痛感しております。

さて、当院は2002年に医学部附属病院と歯学部附属病院が統合して東北大学病院となり、2010年からは新外来棟で医科と歯科が同じ建物の中で連携して診療する体制になりました。ご存知のように、近年医科と歯科のチーム医療が重要になってきております。周術期の口腔機能管理が治療中の患者さんの生活の質の向上において重要視され、医科および歯科の保険に収載されました。東北大学病院におきましても、医科歯科の病診連携の展開として2015年に周術期口

腔支援センターを開設し、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士がより緊密な連携体制を構築し、がん治療や心臓血管治療、臓器移植などにおいて、感染巣除去と口腔衛生管理を中心とした周術期管理を行っております。さらに東北大学病院では入退院センターが開設され、手術予定の患者さんは口腔のスクリーニングの結果や医師の指示にて歯科を受診し、全身麻酔の挿管時にリスクとなる動揺歯や、感染源となりうるむし歯や歯周病などのチェックをルーチンに行うような体制が整いました。

現在、東北大学を受診される外来患者の総数は1日3000名に及びますが、歯科部門を受診される患者数はその2割を占めています。歯科部門の長として、医科と歯科の連携を更に深め、より高度で難易度の高い高度医療を行うとともに、東北地方・宮城県の基幹病院として、各地

域の病院・診療所・開業医と連携をとり、すべては患者さんのためのより安全で安心な医療をめざすために微力ではありますが全力を注いで行きたいと思っております。現在は、医科と歯科の科長会、医局長会を合同で開催することになりましたので、これによりドクター同士も顔が見えるようになり、医科と歯科の連携がますます深まり、質の高い医療が提供できるのではないかと期待しております。どうぞ皆様の応援をよろしくお願い申し上げます。



手術部は進化発展中！

Facility

ついに先進医療棟手術部が稼働しました。

「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指す」という東北大学病院の基本理念に沿った、手術部です。

先進医療棟3階には、手術室17室、中央に配置された大きな器材室があります。中央診療棟手術部にも手術室が5室残り、手術部としては、計22室運営となります。4月までは、18室でしたので、4室増となりました。

各手術室は、先進医療に対応できるよう、現在の約1.2倍の大きさ（内寸でおよそ50～66㎡）、即ち広いアパートの1室程度とかなり大きくなりました。内視鏡による手術に最適化された手術室が4室、高性能・高機能なレントゲン装置を利用し、血管内から治療が可能なハイブリッド手術室、いわゆるロボット

を使用することを前提とした手術室が2室、病理部と連携し、全ての手術室で病理画像を見ながらdiscussion可能など、先進医療棟の名に相応しい手術部となりました。また、お子様安心して手術が受けられるよう、楽しい絵が描かれた手術室もあります。その上、各手術室では、お様が（市販の）DVDなども視聴可能です。もちろん、ご希望があれば、大人の方も、お好きな映像を見ながら、音楽を聴きながら眠ることもできます。

2017年度手術件数は9,100件を

超え、手術室数の増えた2018年度は10,000件も視野に入ってきました。今後3年間をかけて、東西病棟3階を改修し、術中MRI対応手術室も建設予定となっております。まだまだ進化する手術部ですが、一番重要なのは、そこで働くスタッフです。医師・看護師・臨床工学技士・看護助手・薬剤師・放射線技師、クラークのスタッフ総勢150名以上がチームワークを発揮し、「患者さんに優しい」そしてより良い医療を今後も提供していきます。



子供向けの絵が描かれた手術室



平成28年8月当時